

## 研究発表申し込みフォーム

氏名：エンフアムガラン オノン

氏名のローマ字表記：ENKH-AMGALAN ONON

所属：東京外国語大学大学院総合国際学研究科 世界言語社会専攻

専門分野：言語学/ モンゴル語

発表のタイトル:「現代モンゴル語の複数接尾辞-LDAの拡張形と,-LCAの縮約形について」

発表要旨 (600字～800字程度) :

現代モンゴル語の複数接尾辞 -LDAの拡張形と,-LCAの縮約形について記述をまとめ、用法、特徴を示す。現代モンゴル語の相互態接尾辞 -LDAの拡張形は -CALDAであり、協同態接尾辞 -LCAの縮約形 -CAである。だが、これら複数接尾辞の拡張形と縮約形は、通常一般の文法書には、ほとんど記述されることがない。塩谷 (2009: 173) では、以下のようにいくつかの動詞語幹に接続して、主に相互態接尾辞 -LDA 「相互 (互いに～する)」と同様の意を表示すると述べた。例: *bulaa-calda-* (*bulaa-lda-*) 「(物を) 奪い合う」, *oroo-coldo-* (*oroo-ldo*) 「もつれ合う、(舌が) もつれる」, *sax-calda-* (*saxa-lda*) 「押し合う」、*cix-celde-* (*cixe-ldo*) 「混雑して押し合う」。

協同態接尾辞 -LCAの縮約形 -CAは、相互態接尾辞 -LDAと同じく、通常一般の文法書には、ほとんど記述されることがないが、以下のように特に L, R をもつ動詞語幹に接続し、協同態接尾辞 (-LCA) とほぼ同じ意味を表示する。例: *bar'c* 「互いに」張り合う、*bar'* 「つかむ」。

研究方法として、現代モンゴル語のコーパスである、*Mongolian National Corpus* を用い、相互態接尾と協同態接尾辞の付いた全動詞を収集した。相互態接尾辞の付いた動詞は、123動詞、協同態接尾辞の付いた動詞は84例を得た。これらの動詞を観察し、どのぐらいの割合で拡張形と縮約形になりうるのか、拡張形と縮約形と接続不可能な動詞はどのぐらい存在するのかなどの調査を発表する予定である。

## 参考文献

小沢重男 (1978) 『モンゴル語の話』 東京: 大学書林。

Bjambasan. P. (2006) “*Mongol xelny onol, bütcijn asuudald*” Ulaanbaatar: Bodimör press.

塩谷茂樹 (2009) 『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究』 <改訂版> 大阪: 塩谷茂樹。

## 調査資料

“Mongolian National Corpus”

<http://web-corpora.net/MongolianCorpus/search/>